

事務局

エルシティオ内

金城清弘・山本周子

〒640-8319 和歌山県和歌山市手平6丁目112-1 Tel073-424-5449

「関係性」をキーワードに

2012年が始まりました。

学校現場は忙しくなるばかりですが、みなさんには余裕がありますか？ないですね。現場に限らず、社会全体が、生活全体が沈んだようになっています。政権交代したときには、「これで世の中がよくなる」「生活は変わる」そう思った人は多いと思います。ところが何もよくならず、かえって将来に不安を抱くようになりました。「消費税を10%に」「TPPに参加すると日本の農業はだめになるのでは」「原発事故による放射能の外部被曝は」「福島の海洋汚染は」「その水は広域に広がらないのか」「広がったら自分たちの食生活にどのような影響があるのか」・・・いろいろな不安がふくらんでいます。

子どもの姿は大人の社会の鏡とよく言われます。まさにこの社会そのものが疲弊しているのではないのでしょうか。子どもたちの関係性が悪化する中、子どもたちが本当に笑顔でくらせるようにするために、私たちは何ができるのでしょうか？私たちの実践が問われる時です。学校での性教育は、「関係性」をキーワードにますます必要になっています。少しずつではありますが、前に進めていきましょう。

(会長 岩田清彦)

もくじ

巻頭言		1
全国セミナー報告	基調提案	2～3
	理論講座	4～5
総会のご案内		6

30回 全国セミナー in 東京 基調講演

性教育のこれからを考える～新たな実践を問いかける～

浅井 春夫 立教大学・性教協代表幹事

2011年4月より、沖縄国際大学にて戦後の空白の福祉についての研究のために沖縄で生活をしているという浅井春夫さん。今セミナーでの基調講演は、“性教育への再出発”という意味でとても明確で希望の持てる提言でした。

「沖縄での生活である程度は想像していたが、あまりの爆音に基地のそばで暮らすことの大変さが身にしみてわかった。そんな生活をしている中で起こった東日本大震災。今も30万人もの避難者がいるこの状況下で、命の学習をどう位置づけるのか、命やからだの安全についてどのようにして子どもたちの伝えていくのか、何が考えられるのかを改めて問うてみたいと思う。それには性教協の今までの30年の歴史を振り返るとともに、3・11をめぐる状況もふまえながら、この時代をどう見るかといったことが重要であり、変革的視点でよりリアルに時代を捉えなければならないと考える。

子どもの虐待・貧困・性行動の経年的動向、子どもへの性被害・性虐待、性知識の低さ、性教育バッシングが教育に与えた影響、性教育の研究と実践といった現実を見据え、これからの性教育の課題として4つの方向性についてつめておくべきであると考え

- 1、自己受容・自己実現—性的アイデンティティを受け容れ、自分らしく楽しく生きていける力を育む。
- 2、性の健康・性的喜びの保障—性の健康を守るための基本的なからだ・性器の科学的な理解と性の権利(セクシュアル・ライツ)の獲得。
- 3、性行動の自己決定・自立—社会的な性の諸問題への対応能力の形成や、性行動における賢明な自己決定ができる基礎力をつける。
- 4、性の平和・共生—今の性の「暴力の文化」の状況を性の平和の文化へと形成していき、性的共生関係について考える。

そして、これからの性教育を考えるのに問われるのは、まず目的論であろう。アメリカのSIECUS(アメリカ性情報・教育評議会)は『括的性教育のガイドライン』の中で、37

項目の「性的に健康なおとな」像を示している。例えば、「自己のからだに感謝する」、「自己の性的指向を肯定し、他者の性的指向も肯定する」、「自己の行動に責任をもつ」、「衝動的行動をせず性的感情を楽しむ」、「すべての性に関する正確な情報を知る権利の獲得」「正直で楽しく安全な性関係を持つ」などが列挙されている。今まさに具体的にどのような性的人間像を描くのかという問題として検討していくべき時期だろう。

次に実践の方法論の改革である。オランダの共生教育（サークル対話の形式）のように、子どもの主体的な参加をはぐくむことを考えていくことも検討すべきである。

また運営システム論として、学校性教育を中心の性教育プロジェクトを設け、教師・保護者・教育委員会・地域住民、さらに子どもが参加できる社会教育としての性教育を発展させていくことも重要である。

性教育のカリキュラムにおいては、現在のように学校指導要領で「受精に至る過程は扱わない」ということを一方的に決めるのではなく、国・自治体・学校のレベルで、公正で中立的に選出したメンバー（現場実践者・性教育研究者・子どもの性の相談員など）と率直に話し合っすすすめていくことができないだろうか。さらに性教育実践の評価システム開発についても検討されるべき課題であろう。

いくつかの問題提起として、性教育の義務教育化、モデル的なテキストの作成、性的発達論の整理、性教育実践体系の確立、教材・教具の開発をあげておきたい。

今は、幼児の性・成人の性教育の一環としての性教育・高齢者の性といった“ゆりかごから墓場まで”を視野に入れた性教育が求められている。それぞれの現場での性教育の使命を、これからも真摯に追究していきたいものである。」

最後に浅井さんは、「あなたは性教育の樹にどんな花を咲かせますか？」と私たちに問いかけました。性教育バッシングから長い間温めてきた芽を、ようやく花咲かせる時期が来たのだと確信した言葉でした。そして、アウグスティヌスの「希望には二人の娘が。一人は怒りであり、もう一人は勇気である」という言葉でしめくりました。

（報告者 滋賀HALサークル 脇野千恵）

理論講座 I

性欲教育から純潔教育、そして性教育へ～性教育設立前史～

田代美代子(埼玉大学・性教協幹事)

日本の性教育の歴史を研究してこられた田代さんがとても興味深い話をされた。勉強不足の私にとっては、少し首を傾けながらもその熱い語りに引き込まれ、時に「歴史って本当におもしろいでしょう！」と満面の笑みで話される様子に、きっと楽しくて仕方ないんだろうなと感じてしまったのは私だけではないだろう。

1、1920～30年代における性教育論の特徴

10年代の日本における性教育論の出発点は「性欲学」の延長上にあった「性欲教育」であった。「性欲」はもともとマイナスイメージを伴って扱われ、その「性欲」を抑制しようとするのが「性欲教育」の主要な目的であったといわれている。特に男の性欲は「能動的」、女の性欲は「受動的」といった性差の強調がそのまま表れたものだった。

20年以降は、多様な立場からの性教育論が高まっていった時代である。その背景には性をめぐる状況への危機感もたれ始めたことによるものであると思われる。

例えば、「結婚解消事件」「不良少女の問題」「少女暴行事件の頻発」などが具体的に書物にとりあげられたりしていることから、個人的、社会的にも緊急を要する問題だとしておいるにも関わらず、教育界においては性教育の必要性についての共通認識はほとんどなかったし、実践も同様であった。

30年代に入り、廃娼運動が純潔教育へと変容する過程で、性教育は性の科学的側面をあつかう「性教育」と性道徳を中心とする「純潔教育」に分断されていっただけでなく、性に関する知識教育のそのものが否定されていった。

40年代には、戦争中に「国体護持」のために必要とされた特殊慰安施設が、性病の蔓延のために閉鎖になったように「性病予防教育」が重視されるようになった。慰安目的に集められた女性たちの体を思っただけのことではなく、あくまでも兵力低下を防ぐためであったとは腹立たしいことである。

同時期の翻訳性教育論をみると、19世紀末の欧米諸国においては、「性を価値ある人間的活動」として位置づけているセクシュアリティ観が登場し、性教育論もその中で展開されていた。それまでつくられてきた性のマイナスイメージの批判の上に、性教育の必要性を説いたもので性をポジティブにとらえるためには、科学的な性知識、性的事実を教えることが重要であると述べられている。

日本の性教育論は「性欲教育」として出発し、「性欲を抑える」ことをその中的な目的としていたことを考えれば、性をポジティブにとらえることは困難である。その結果、日本の性教育は、禁欲を志向とする「道徳教育」へと傾斜していくことになったのである。

2、戦後の日本の性教育

「私娼の取り締まり並びに発生防止」(1946)から出発した「純潔教育」の当初の目的は、「男女間の正しい道徳秩序を打ち立てる」ことであったが、文部省社会教育局による風俗対策、治安対策の一環としての純潔教育に変化していった。1949年2月には、「純潔教育基本要領」がまとめられると同時に、中学校・高等学校では体育科から保健体育に変わり、やがて健康教育に位置づけられることになる。

60年代になると、学校教育における「純潔教育」が広がりを見せるが、実践内容は必ずしも「純潔教育」ではなかった。

70年代、女性解放運動が進展する中で、「日本性教育協会」が設立され、「性教育」という言葉へ転換していった。しかし、日本の教育行政は、80年代後半まで「純潔教育」を肯定的に扱い、「性教育」という用語を90年代以降まで使うことはなかった。

3、おわりに—歴史から見えてくること—

歴史から浮かび上がってきた日本の性教育の課題は、次のような3点にまとめられる。

- ①ネガティブな性のイメージ
- ②性道徳への傾斜と科学的な性知識の軽視
- ③ジェンダーへの視点の欠落

したがって、性教育を組み立てる際の指標としては、

- <1> 性をポジティブにとらえられているか。
- <2> 科学的な性知識が重要なものとして位置づけられているか。
- <3> ジェンダー平等・性の多様性の視点から考えられるか。

以上の3点を重要なポイントとして考えねばならない。そのためには、一人ひとりの教師が実践を支える確かな基礎、ぶれない軸を獲得するための歴史を学び、思想を学び、理論を学ぶことが不可欠である。

一時間半にわたる講座をまとめながら、性教育へのバッシングに対して“おかしい！”とはっきり言えるために、日々学ぶことって大切だなあと感じた。2012年もがんばろう！！

2011 総会＋学習会について

※日 程 3 月 3 日 (土)

※場 所 伊都教育会館

※時 間 総 会 12:30～13:15
学習会 13:30～15:00

※学習会内容 第21回近畿セミナー 中学校 分科会
伊都支部提案発表

※テーマ 「命をまるごとひきうける責任」
～より自分らしく輝くために～

～事務局より～

会費の納入をお願いいたします！

和歌山の会員様をお願いいたします。和歌山性教協の財政は、皆様方の会費で成り立っていますので、早急の納入をお願いいたします。

みんなで近畿セミナー(京都)へ行こう！

日時：2012年3月18日(日) 9:30 受付開始 10:00～16:30

場所：京都教育大学 C棟 JR藤森駅徒歩3分

締め切りは3月9日(金)必着 "人間と性"教育研究協議会HPからも申し込みができます。